



## サインペンはいつできたの

### 第二次世界大戦後、アメリカで

フェルトペン、サインペンなど、いろいろなよび方<sup>かた</sup>がありますが、これらをあわせて、マーキングペンといいます。マーキングペンには、油性<sup>ゆせい</sup>のものと水性<sup>すいせい</sup>のものがあります。

油性<sup>ゆせい</sup>のものは、万年筆<sup>まんねんひつ</sup>などの水性<sup>すいせい</sup>インキでは書きにくかった木材<sup>か</sup>、布<sup>ぬの</sup>、ガラス<sup>もくざい</sup>、金属<sup>きんぞく</sup>などにも書ける筆記具<sup>か ひっきぐ</sup>として、第二次世界大戦後<sup>だいにじせかいたいせんご</sup>に、アメリカ<sup>つく</sup>で作られました。

日本では、1953年<sup>ねん</sup>ごろから、フェルトペンが市場<sup>しじょう</sup>に出まわりました。

その後<sup>ご</sup>、水性<sup>すいせい</sup>インキを使い<sup>つか</sup>、字<sup>じ</sup>が紙<sup>かみ</sup>の裏<sup>うら</sup>にぬけたり、にじんだりしないように改良<sup>かいりょう</sup>されたサインペンが、日本<sup>かいはつ</sup>で開発<sup>かいがい</sup>されました。これが、日本<sup>かいはつ</sup>よりも海外<sup>ひょうばん</sup>で評判<sup>へいばん</sup>になり、それがまた、日本<sup>にんき</sup>での人気<sup>にんき</sup>のもとになりました。

### マーキングペンのいろいろ

油性<sup>ゆせい</sup>のマーキングペンは、細い字<sup>ほそ じ</sup>が書けるものから、太い字<sup>ふと じ</sup>が書けるものまで、洗たくしても落ちないもの<sup>せん</sup>、フィルムやガラスなどに書けるものなど、いろいろ種類<sup>しゅるい</sup>のものがあります。また、色のついたもの<sup>いろ</sup>の上<sup>うへ</sup>に書いても、その色<sup>いろ</sup>がはっきり出る<sup>で</sup>、ペイントマーカーがあります。

水性<sup>すいせい</sup>マーキングペンは、おもに、紙<sup>かみ</sup>に字<sup>じ</sup>を書くこと<sup>か</sup>に適<sup>てき</sup>して、色<sup>いろ</sup>がはっきり出る<sup>で</sup>ので、色数<sup>いろかず</sup>もたくさんあります。また、毛筆<sup>もうひつ</sup>の感じ<sup>かん</sup>が出せる筆ペン<sup>だ</sup>や、アンダーライン用<sup>ふで</sup>、ポスター用<sup>よう</sup>などいろいろあります。（監修・青木 国夫）

